

## 平成30年度印旛地域保健医療連携・地域医療構想調整会議 部会結果概要

- 1 開催日時：[第1回] 平成30年10月23日（火）午後1時25分～午後2時55分  
[第2回] 平成31年 1月24日（木）午後3時～午後4時10分
- 2 会 場：印旛合同庁舎2階 多目的室
- 3 出席者：別添出席者名簿のとおり
- 4 主な議事：（1）病床機能の見える化に係る検討について  
（2）病床機能に係る実態把握調査について
- 5 協議結果
  - （1）病床機能の見える化に係る検討について
    - ・厚生労働省より、地域医療構想調整会議の議論の活性化を図るために、地域の実情に応じた定量的基準の導入を検討するよう通知が出されたことを受け、埼玉県の前行事例を基に、本県における病床機能の見える化に向けて検討を行った。
    - ・埼玉県方式は、病床機能報告のデータを活用して医療機能を分類する方法であるが、同方式に対しては、評価項目の不足や評価期間の短さ等、問題点が複数あげられた。
    - ・指摘事項を踏まえ、埼玉県方式に補正項目を設ける案を提示し、算定値については、病院単位ではなく圏域全体として示していく方針であることを説明したところ、疑義が残る部分はあるが、県全体として実施するものであることへの理解をいただいた。
  - （2）病床機能に係る実態把握調査について
    - ・病床機能の実態把握には、点数を用いるのが適しているとの意見があがったことから、東葛南部圏域で実施した病棟単位の医療資源投入量（1か月分）の調査を基に、調査期間を1年間に拡大して、部会構成員の3病院を対象に実態把握調査を実施した。
    - ・具体的な数値については、法人情報であることから公表を差し控えるが、病院間で医療資源投入量に大きな差が見られた。この点については、病棟の編成等が影響しているのではないかとの意見があがった。
    - ・また、各病棟の医療資源投入量を（主たる）診療科別に分類し分析を行ったところ、各病棟には複数の診療科が入っていることから、診療科としての分析を行うのであれば、より精緻なデータを用いる必要があるとの指摘があった。

(別紙) 平成30年度印旛地域保健医療連携・地域医療構想調整会議 部会 出席者名簿

○ 第1回

| 所属              | 役職           | 氏名     |
|-----------------|--------------|--------|
| 印旛市郡医師会         | 会長           | 柴 忠明   |
| 成田赤十字病院         | 院長           | 角南 勝介  |
|                 | 事務副部長        | 藤江 伸治  |
| 東邦大学医療センター 佐倉病院 | 院長           | 長尾 建樹  |
|                 | 事務部長         | 春木 信一  |
| 日本医科大学 千葉北総病院   | 院長補佐         | 江本 直也  |
|                 | 医事課長         | 伊東 秀一  |
|                 | 医療連携支援センター課長 | 飯島 勝利  |
| 印旛健康福祉センター      | センター長        | 佐久間 文明 |

○ 第2回

| 所属              | 役職           | 氏名     |
|-----------------|--------------|--------|
| 印旛市郡医師会         | 会長           | 柴 忠明   |
| 成田赤十字病院         | 院長           | 角南 勝介  |
|                 | 事務副部長        | 藤江 伸治  |
| 東邦大学医療センター 佐倉病院 | 院長           | 長尾 建樹  |
|                 | 事務部長         | 春木 信一  |
| 日本医科大学 千葉北総病院   | 院長           | 清野 精彦  |
|                 | 医事課長         | 伊東 秀一  |
|                 | 医療連携支援センター課長 | 飯島 勝利  |
| 印旛健康福祉センター      | センター長        | 佐久間 文明 |